



## 恵那農高生がコンクリート舗装

10月10日、長島町久須見千田地内で手造り公共事業が行われました。これは、えな土地改良区が主体となり、平成15年度から、田園空間の必要性などを地元で携わる方から次世代に伝えることを目的として行っている事業。この日は、恵那農業高校2年生17人と地元住民10人が参加し、農道のコンクリート舗装をえな土地改良区安藤昭治副理事長らの指導のもと、手作業で行いました。17日には路肩造成を行い、165㍍の農道が完成しました。

コンクリートを手早く均等にならす生徒たち



## 最初で最後の共演

10月1日、岩村高校体育館で恵那市消防音楽隊と岩村高校吹奏楽部のふれあいコンサートが開催されました。来年、岩村高校が恵那南高校に変わることから、以前共演した旧山岡町消防音楽隊員から「新恵那市消防音楽隊と岩村高校吹奏楽部の共演は、これが最初で最後」との呼び掛けで今回のコンサートが実現しました。約2時間の演奏の最後に合同演奏として「世界に一つだけの花」ほか2曲が披露され、会場を魅了しました。

合同演奏が体育館に響き渡り観客を魅了

## ふるさとふれあい交流

10月11日、上矢作小学校で同校の3年生と5年生28人と、中野方小学校の3年生と5年生27人が、地域の特性を知り合うことを目的にふるさとふれあい交流事業を行いました。両校は歯と口の健康教育という共通の取り組みを行っており、校内の健康コーナーなどを案内し、健康な歯を作るための取り組みを説明しました。中野方小学校からは笠置山の標高やホテルの餌についてクイズ形式に出題し、お互いの地域を紹介し合いました。



健康な歯を目指す歯みがきチャンピオンの説明

## 門外不出の重箱獅子

三郷町野井の舟森山武並神社で10月8日、秋季大祭が開催され、市有形民俗文化財で門外不出の重箱獅子が奉納されました。

この地区には、戦国時代に武田軍との戦いに敗れ、逃げてきた徳川家康が、重箱を頭に載せて踊っていた祭りの輪の中に入り、難を逃れたという伝説が残っており、和紙に漆塗りを施した家康ゆかりの重箱形の獅子を一目見ようと、多くの見物者が境内に詰め掛けました。



太鼓と笛に合わせて境殿を回る重箱獅子の舞



## 秋空に響き渡る中山太鼓

10月15日、串原の中山神社大祭が同神社で行われました。県重要無形民族文化財指定を受ける中山太鼓は、毎年10月の第3日曜日に例祭が行われ、2頭の花馬とともに五穀豊稔、無病息災を祈願し奉納され、竹と色紙で作られた花は、お守りとして家々に飾られます。この日は地元住民のほか、豊田市などからも多くの方が詰めかけ、境内に並んだ大太鼓を速いテンポで打ち回る「回り打ち」が晴天の秋空の下、神社周辺に響き渡りました。

竹笛と迫力の回り打ちの太鼓音が境内に響く



## 考えよう恵那市の環境

10月9日、岩村公民館で「身近な環境・美化フェア」が開催され、約120人が集まりました。これは、現在策定中の「市環境基本計画」の検討内容を周知し、意見を聴取するために開かれたもので、同計画策定委員がこれまでの検討内容を発表したほか、恵那農高生や環境活動団体など4グループが特色ある環境活動を発表しました。その後、郷土史家の安藤利道さんから5人がパネルディスカッションに参加し、環境問題について議論しました。

環境基本計画の策定状況を説明する同計画策定委員



## 窯をたき炎に酔う

登り窯を使って地域を活性化しようと10月22日、山岡陶業文化センターで登り窯フェアが開催されました。階段状に3つの室が連なる登り窯では、市内保育園児や小中学生、山岡陶業文化センターの陶芸教室生徒・先生らの力作約1200点が焼成されたほか、願いごとを書いた護摩木が投入されました。また会場では、お茶会や陶芸作品の即売会などが行われ、市内外から集まった約300人は、歴史ある山岡の窯や陶器と触れ合いました。

護摩木を登り窯に投げ入れる参加者



## ふるさとの屏風山に挑む

10月15日、三郷公民館が主催するふるさとの山に挑戦・屏風山登山が開催され、約30人が794mの登山に挑戦しました。

森のドクター吉澤守さんの案内により寿老の滝駐車場を出発。林道を通り山道を抜け、黒の田南湿地で休憩し、約2時間で山頂に到着しました。参加された皆さんは、一番高い八百山(800m)からの眺めや山野草の花などを見て楽しみながら、ふるさとの山を満喫していました。

屏風山山頂で登ってきたコースを確認する参加者

## 一心不乱にトイレ磨き

10月22日、明智町で「大正村掃除に学ぶ会・第15回年次大会」が開催され、約750人がトイレ掃除などに取り組みました。

子どもたちが楽しく参加できることを大会テーマとし、小中学生の親子から一般、遠くは茨城県などから参加され、皆さん一心不乱にトイレをピカピカに磨きました。ボランティア精神のふるさと、日本大正村で平成5年に35人から始まった活動は、現在では、米国など世界にまで広がりを見せています。

トイレの隅々までピカピカにトイレを磨く中学生ら



## ひし屋に響く琵琶の音

10月16日、江戸時代の趣を現代に残す旧家、大井町の中山道ひし屋資料館で、秋月の宵「筑前琵琶演奏会」が開催されました。奏者の田中旭泉さん(八百津町在住)は、6歳のときから琵琶を始め、人間国宝の山崎旭萃師匠の直弟子となり琵琶楽を追究してきました。演奏会では、鎌倉時代の武将遠藤盛遠が「文覚」として出家するきっかけとなった物語「文覚発心」など2曲を披露し、集まった約80人の観客を魅了しました。

薄明かりの中演奏する田中旭泉さん



## ささゆりの湯の特別メニューに

串原料理コンクール「くしはらがうまい」の最終審査が、10月22日串原小中学校で開催されました。このコンクールは、串原の特産品を使ったアイデアレシピを公募。遠くは京都市から24レシピの応募があり、書類審査を通過した5レシピが最終審査を受けました。厳正なる審査の結果、最優秀賞には鈴木深介さん(名古屋市)の「白玉豆腐 串原は雪景色」が選ばれ、ささゆりの湯レストランの期間限定特別メニューとして登場します。

串原の豆腐を使った一品料理を作る親子の参加者



## モンゴルと文化交流

10月18日から1週間、上矢作町と交流を進めるモンゴルから中学生8人が同町にホームステイしました。生徒らは、同国で最も優秀な中学校生徒の中から選ばれ、日本語で自己紹介するなど日本への関心の高さが感じられました。上矢作小学校と中学校を訪問し、福寿太鼓や馬頭琴などでお互いの文化を体験しました。また恵那文化センターのオユンナさんのコンサート、歌舞伎の鑑賞など文化交流を行いました。

上矢作中学校生徒から太鼓の笛を習うモンゴルの生徒④